

新市場開拓に向けた水田リノベーション事業（令和2年度第3次補正予算）のうち 需要創出・拡大整備支援事業を活用した取組事例

需要創出・拡大整備支援事業の概要

新型コロナウイルス感染症の影響等により主食用米の需要が減少する中、水田農業を活性化していくためには**輸出や加工品の製造といった新たな需要に対応していくことが重要**。産地と実需者の新たな結び付きを強化するとともに、**需要に応じた加工品の生産体制の強化の取組や国産原材料への切り替えのために必要となる施設整備を支援**。

取組事例 一覧

No.	都道府県	事業実施主体	作物・製品	取組	整備施設・機械
1	北海道	函館米穀株式会社	米	輸出	精米ラインの機械
2	北海道	有限会社澤田米穀店	米菓	輸出	米菓の製造機械
3	山形県	株式会社まいすたあ	米	輸出	貯蔵施設
4	山形県	株式会社 丸屋本店	米	輸出	精米ラインの機械
5	埼玉県	みたけ食品工業株式会社	上新粉	国産原材料への切替	上新粉の製造機械
6	新潟県	岩塚製菓株式会社	米菓	輸出	米菓の製造機械
7	滋賀県	京都グレインシステム株式会社	麦茶	国産原材料への切替	麦茶の製造ラインの機械
8	京都府	黄桜株式会社	日本酒	輸出	日本酒の製造機械
9	熊本県	合同会社黒木農園	ミトマト	輸出	選果ラインの機械
10	熊本県	株式会社なかせ農園	かんしょ	輸出	貯蔵施設

※令和2年度事業では上記の事例の他、甘酒の輸出の取組事例を加えた計11件の取組を支援。

事例 1

米の輸出拡大に向けた品質保持期間の延長のための 脱酸素型の計量包装機の導入

函館米穀株式会社【北海道函館市】

取組の概要

- ◆ 平成26年から開始している米の輸出について、更なる輸出拡大の課題となっていた品質保持期間の延長や長期輸送に対応するため、計量包装時に脱酸素剤を封入し、包装内の酸素を取り除く脱酸素剤投入型の計量包装機や輸出先国に対応したパッキングを行うための包装機等の機械導入を行う。

目標

- ◆ 令和7年度の輸出額を現況(令和元年度)1,600万円の5倍にあたる8,000万円を目指す（数量ベースで現況60トン→目標300トン）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

加工施設、精選及び貯留施設、出荷施設及び包装施設
(対象精米生産能力：5,223トン/年)

- ・脱酸素剤投入機能付き計量包装機 1機
- ・精米機・色彩選別機・ストレッチ包装機 各1機 等
- ・上記機器により輸出用ラインを増設



脱酸素型計量包装機



色彩選別機



精米機

参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
魚津市農業再生協議会、JAいわみざわ地域農業再生協議会、知内町農業再生協議会

事例 2

米菓の輸出拡大に向けた生産量の増加と品質向上 のための米菓製造機械の導入

有限会社澤田米穀店【北海道北斗市】

取組の概要

- ◆ 平成30年から開始している米菓（ポン菓子）製造について、更なる輸出拡大の課題となっていた生産量の増加や品質向上に対応するため、新たに米菓製造工場を整備し、製造過程において油を使用せずに米菓に味付けする技術により賞味期限の延長等が図られる米菓製造機械等の導入を行う。

目標

- ◆ 令和7年度の輸出額を現況（令和2年度）10万円の60倍にあたる600万円を目指す（数量ベースで現況20kg→目標1,200kg）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

加工施設、出荷及び包装施設
(対象米菓生産能力：年105,000袋)

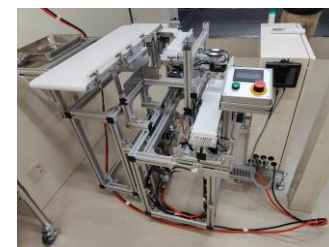
- ・米菓製造機械（米穀膨張機、味付け回転釜等） 一式



米穀膨張機



味付け回転釜



自動計量充填機

参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
北斗市農業再生協議会

事例3

米の輸出拡大に向けた長期保管に対応可能な 米集荷貯蔵定温倉庫の整備

株式会社まいすたぁ【山形県東田川郡三川町】

取組の概要

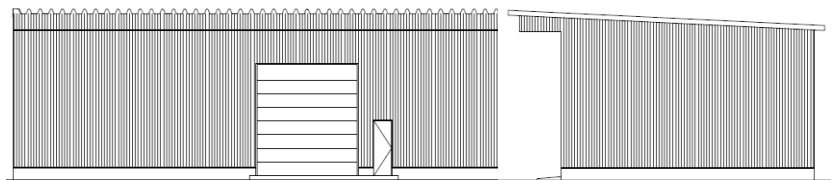
- ◆ 三川町内及び近隣市町の生産者から集荷する輸出用米について、更なる輸出拡大の課題となっている需要増加に応じた輸出用米の保管場所の確保と輸出先の販売状況による納品時期の大幅な変動に対応するため、長期保管になることを想定した米集荷貯蔵定温倉庫の整備を行う。

目標

- ◆ 令和7年度の輸出数量を現況（令和2年度）91トンの約11倍増にあたる1,000トンを目指す（玄米ベース）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

米集荷貯蔵定温倉庫（298m²、約500トン収容）
・中温用エアコン 一式



米集荷貯蔵定温倉庫（イメージ）

（ 参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
三川町農業再生協議会、鶴岡市農業振興協議会 ）

事例4

米の輸出拡大に向けた精米品質向上・フレコン包装に 対応可能な加工施設の内部整備

株式会社丸屋本店【山形県東根市】

取組の概要

- ◆ 香港への米の輸出拡大の課題となっている高品質化（異物混入ゼロ）とコスト削減に対応し、精米品質向上と精米～出荷までの作業効率化に必要な一貫体制を構築するため、異物除去機能を有する品質管理選別装置、フレコン包装設備を併せ持つ加工施設の充実・強化を行う。

目標

- ◆ 令和7年度の輸出数量を現況（令和2年度）15トンの約26倍増にあたる400トンを目指す（精米ベース）
（金額ベースで現況3,888千円→目標110,160千円）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

加工施設（精米処理能力1.5トン/時間）
・品質管理選別装置 2台（うち1台は異物除去機能付き）
・フレコン包装設備 一式



品質管理選別装置



フレコンスケール

（ 参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
東根市農業再生協議会 ）

事例 5

原料米の国産シェア拡大に向けたコスト低減・品質安定化のための上新粉製造設備の導入

みたけ食品工業株式会社【埼玉県戸田市】

取組の概要

- ◆ 国産原料への要望が高まっている上新粉について、MA米からの切替の課題となる製造コスト低減と品質の安定化を目指して、複数年産・品種をブレンドするためのサイロ、荷受設備、無洗米機等の精米設備等の機械導入を行う。

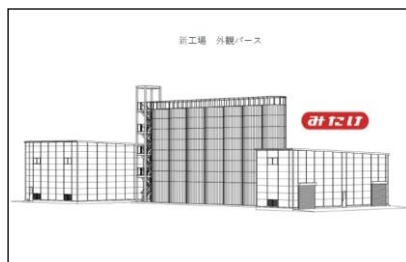
目標

- ◆ 令和 7 年度の国産米を使用した上新粉の出荷額を現況（令和元年度）3 億円から約 2 倍の 6 億 6 千万円を目指す
（出荷量ベースで現況562トン→目標1287トン）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

荷受及び貯蔵施設

- ・原料サイロ（20トン） 7 基
- ・荷受加工施設（500 m²）
- ・無洗米機 1 台
- ・製造ライン改良 等



参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
鴻巣市農業再生協議会

事例 6

海外向けの米菓の新商品開発・生産に向けた流動焙煎装置と自動計量包装機の導入

岩塚製菓株式会社【新潟県長岡市】

取組の概要

- ◆ 米菓の国内市場規模が横ばいであることを背景として、新たに海外市場への展開を図っていく上で必要となる海外向け新商品を開発・生産する装置・機械を導入し、東アジアをメインターゲットとした米菓輸出に取り組む。

目標

- ◆ 現況（令和 2 年度）の輸出実績はないが、令和 7 年度に輸出額 6,000 万円を目指す
（米菓数量ベースで現況0トン→目標58トン）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

米菓加工施設

- ・流動層焙煎装置
- ・自動計量包装機 一式



流動層焙煎装置



自動計量包装機

参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
長岡市農業再生協議会

外国産に依存している麦茶原料大麦を国産に切り替え 国産麦茶一貫製造拠点の導入

京都グレインシステム株式会社【滋賀県長浜市】

取組の概要

- ◆ 外国産に依存している麦茶原料の大麦を国産（滋賀県長浜市産）に切り替えるとともに、実需者ニーズに対応した大麦の生産を振興するため、国産麦茶一貫製造拠点として、選別・焙煎・包装設備を導入する

目標

- ◆ 国産（滋賀県長浜市産）大麦使用量の拡大
（現況（令和2年度）1,200 t →令和7年度 2,800 t）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

・選別・焙煎・包装設備



選別設備



焙煎設備



包装設備

参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
長浜市農業再生協議会

日本酒の輸出拡大に向けた日本酒製造ラインの 増強・自動化

黄桜株式会社【京都府京都市】

取組の概要

- ◆ 海外（アメリカ、オーストラリア、ドイツ、韓国を中心に）で人気の純米酒や吟醸酒の高品質化を図り、輸出向け日本酒の生産拡大を図るため、日本酒製造ラインの増強、自動化を行う。

目標

- ◆ 京都府産の酒造用原料米「京の輝き」を使用した日本酒の輸出拡大
（輸出額（輸出量）：
現況令和2年度 4.4億円（700kl）→令和7年度 8.5億円（1,200kl））

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

・精米・浸漬・発酵・冷却設備等の日本酒醸造設備機械



参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
京丹後市地域農業再生協議会

事例 9

ミニトマトの新規輸出に必要となる品質及び出荷量を確保するための選果ラインの導入

合同会社黒木農園【熊本県八代市】

取組の概要

- ◆ 自社で生産・販売を手掛けているミニトマトは、これまで総合環境制御機によって、品質の安定を図ってきたところであるが、アジア諸国への輸出を展開するために必要となる品質及び出荷量を確保するため、新たな選果ラインを導入する。

目標

- ◆ 令和7年度の輸出額を現況（令和2年度）実績なしから1,350万円を目指す（数量ベースで現況0トン→目標18トン）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

ミニトマト選果機（約1,500kg/hr）

- ・ ミニトマト研磨選別機 1機
- ・ 自動梱包機 1機



ミニトマト研磨選別機



自動梱包機

参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
八代市農業再生協議会

事例10

かんしょの輸出拡大に向けた品質及び出荷量を確保するための熟成用貯蔵施設の整備

株式会社なかせ農園【熊本県大津町】

取組の概要

- ◆ 香港やシンガポールなどへの輸出実績があるかんしょについて、需要が高まる一方で品質が確保された輸出品の確保が追いついていない状況にある。
- ◆ このため、輸出先の需要に応じた品質を維持しつつ、熟成貯蔵中の歩留まり低下を防ぎ、求められる出荷量を確保するために必要となる貯蔵施設を新たに整備する。

目標

- ◆ 令和7年度の輸出額を現況（令和2年度）110万円の3倍にあたる330万円を目指す（数量ベースで現況60トン→目標300トン）

事業を活用して整備する（整備した）施設・機械

熟成用貯蔵施設（96m²、50 t）



施設（外観）



施設（内観）

参画する水田リノベーションプランを策定した地域農業再生協議会（連携している産地）：
大津町農業再生協議会